

明るい未来の創造に向けて！ 地域の声を県政に！

山形県議会議員 **高橋 淳** (無所属/県政クラブ) 県政報告 <No.5>

■発行日：2022年3月27日（作成：2022年3月18日）山形県議会議員 高橋 淳事務所 発行

〒999-7601 山形県鶴岡市藤島字古楯跡100-1

TEL:0235-26-8731/FAX:0235-26-8732 /Mail: takahashi.jun.kouenkai@gmail.com

■山形県議会（県政クラブ執務室）TEL：023-630-3211（4階受付）※ホームページ→



令和4年度山形県一般会計当初予算案 総額6,848億420万4千円!!

■令和3年度当初に比べ0.4%増！ 経済対策607億円！ コロナ克服・やまがた新生予算(全国初や東北初の支援策など)!!

ワクチン接種の加速化！ 新型コロナウイルス「BA・2」県内で初確認！

■県は、市町村や関係団体と連携しワクチン接種の加速とともに、3月7日～3月21日までは、「クラスター抑制重点対策」に移行！

東日本大震災から11年がたちました。震災によって亡くなられた方々のご遺族に対し深く哀悼の意を表するとともに、今なお苦難を背負いながら懸命に努力を続けている皆さんの安らかな日々が早く戻ることをご祈念いたします。

さて、県内においては、年末年始から2月上旬かけて豪雪と暴風雪に見まわれました。そして、県内でも新型コロナウイルス感染症の第6波が猛威を振るい、1月末時点においては新規感染者の約7割が庄内地域を占めるなど、庄内地域での急激な感染拡大に危機感を抱いたところです。

一日も早く収束に向かって「ポストコロナ社会」が到来することを強く願っております。

▶令和4年度一般会計当初予算案 6,848億420万円可決!! コロナ克服・やまがた新生予算!!

山形県では、新年度の一般会計当初予算案として総額6,849億1,200万円を県議会に内示しておりましたが、果樹王国情報発信拠点の施設整備事業費について、「基本構想」が示されてこなかったなどの事由により、農林水産常任委員会で集中審議がなされました。県側から11日の予算案採決日に「予算の見直しを検討する」と発言があり、定例会中の予算案採決に影響を及ぼしました。

今回、県議会に提出された議第29号「令和4年度山形県一般会計予算」は、「やまがたの農林水産物を活用した情報発信推進事業費」の事業内容(1億779万6千円を削除)を見直すために議案の撤回を行い、3月15日の本会議において再提案し、各常任委員会の審査を経て本会議で可決されました。前年度当初に比べて0.4%増となり、当初予算の推移を見ると6,500億円を超えるのは2年連続です。

【全国初】○特定不妊治療費の医療保険適用(R4.4～)により生ずる自己負担の一部を支援。

○果樹王国ややまがた再生に向けた先行投資型果樹園地整備への支援等。など

【東北初】○私立高校等の授業料等軽減支援の拡充(世帯年収約910万円以上の多子世帯への支援等)。

○AI機能一体型の児童相談所業務支援システム導入による児童虐待対応強化。



▶新型コロナウイルス感染症への対応について クラスター抑制重点対策に移行! 県内でBA・2初確認!!



山形県は3月4日(金)、県危機対策本部本部員会議を開催し、3月6日をもって「再拡大(リバウンド)防止特別対策期間」を終了し、「クラスター抑制重点対策(3月7日～3月21日)」に移行することを決定しました。県としては、市町村や関係団体と連携し、ワクチン接種の加速とともに、第6波で多発している高齢者施設や保育施設、学校のクラスター対策の実効性を高めるなどクラスターの発生抑制と日常の感染防止対策の徹底に重点的に取り組む考えです。

また、県は5日、新型コロナウイルスのオミクロン株の派生型で、より感染力が強いとされる「BA・2」の感染事例が県内で初めて確認(ゲノム解析の結果)されたと発表いたしました。全国的な傾向と同様、県内でもBA・2の増加が想定されます。改めて、基本的な感染防止対策の徹底をお願いいたします。

▶山形県へ要望書等を提出!! 早期公立化、地盤沈下対策、県道除雪作業、運転代行業、融雪剤散布支援など

今年度は、鶴岡・酒田商工会議所、庄内地区商工会広域連絡協議会の3経済団体から「東北公益文科大学の早期公立化」、そして、地域の皆さま方からの陳情要請等により、西荒屋地内の「地盤沈下対策」、「県道除雪作業に関する緊急要望書(3自治会)」、「山形県まん延防止等重点措置に伴う運転代行業の事業継続にかかる支援策等(鶴岡6業者)」。また、JAや農業関係団体との意見交換会を実施し、「山形県農業の維持・発展並びに農村施策に関する要望書」、そして、原油価格高騰と例年ない豪雪等に伴い、県政クラブでは、「融雪剤散布支援などの緊急要望書」を提出いたしました。

他にもコロナ関連、鶴岡管内の除排雪作業や河川の浚渫・支障木の撤去(温海地域他)、交通事故防止による道路標識の設置(鶴岡市本町)など、幅広い分野での政策実現につながっています。



令和3年度 決算特別委員会・一般質問での発言要旨

<決算特別委員会の概要>

令和3年10月27日から29日までの期間に開催され、9月定例会に提出された令和2年度の一般会計、10の特別会計及び6の事業会計を含む計17決算、各事業会計の未処分利益剰余金の処分に関する4議案について、決算特別委員会分科会の審査を行ったうえで、県政クラブを代表し、総括質疑を行いました。主な質疑内容は下記の通りです(一部抜粋)。

▶県政クラブ/文教公安常任委員長:高橋 淳

- 1 令和2年度の県政運営の評価について(知事)
- 2 頻発化・激甚化する豪雨災害への取組みについて(県土整備部長)
 - (1) 令和2年7月豪雨を踏まえた治水対策について
昨年7月の豪雨災害及び新型コロナウイルス感染症への対応を進めるために、喫緊の課題への対応などを含め、県議会8月、9月補正予算総額としては過去最大の400億円を超える額となった。県が実施する河川関係の公共土木施設災害復旧事業について、現在の進捗状況と今後の見通しはどのようになっているのか。また、想定を超える洪水に備えた「流域治水」の取組み状況はどうか。
 - (2) 河川整備の取組み状況について
- 3 豚熱発生の未然防止策や今後の対応策について(農林水産部長)
- 4 県立病院の令和2年度決算状況について(病院事業管理者)
- 5 コロナ禍におけるがん検診の「検診控え」について(健康福祉部長)
- 6 非常時における財政的な備えについて(総務部長)
- 7 令和2年度決算審査等の所感について(代表監査委員)

<県議会2月定例会の概要>

令和4年2月17日から29日間の会期で開催され、代表質問、一般質問、さらに予算特別委員会での各委員による質疑や常任委員会での審査を経たうえで、再提案された令和4年度一般会計予算などの議案を可決いたしました。主な質疑内容は下記の通りです(一部抜粋)。

▶県政クラブ/文教公安常任委員長:高橋 淳

- 1 コロナ感染拡大時における対応について(健康福祉部長)
急激かつ爆発的なコロナ感染者を抑え込むには、各保健所による積極的疫学調査が最も重要なポイントであると感じている。また、厚生労働省の新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理システム「HER-SYS(ハーシス)」も業務量の縮小が図られとても有効であると思っている。この感染拡大の速さを目の当たりして、果たしてこれまでの方法で耐えられるのだろうか懸念しているが、職員の体制を含め、今後、感染拡大時にどう対応していくのか。
- 2 デジタル技術を活用した広報の推進について(総務部長)
- 3 広域的な道路交通網の拡充と課題について(県土整備部長)

道路整備による10分、20分の時間短縮はとても重要であるが、東西の新たな幹線道路である「庄内南部中央道路」は、日本海沿岸東北自動車道と新庄酒田道路による高規格道路の広域ネットワークについて、新潟方面と最上地方を短距離・短時間で結びながら、鶴岡市へのアクセスを改善することになる。これにより、スムーズな交通流の展開が図られ、人や物の流れの効率



化や観光・雇用の増加などのストック効果が期待される。財政面などでの課題等はあるものの、県内の物流の状況や観光資源等を見据え、速達性のある、県土の骨格となる道路ネットワークの整備が必要と考えるがどうか。

4 雪に強い交通基盤の整備と雪道の安全対策について(県土整備部長)

庄内地域においては、1月中の暴風雪により幹線道路の至る所が地吹雪によって吹き溜まりとなり、三川町の国道7号などの道路などの通行止めが相次ぎ、通勤、通学の時間帯を直撃し交通機関等に大きな影響を及ぼした。自然環境がもたらす要因はあるが、地吹雪による除雪対応や迂回路の情報提供の遅れ、防雪柵が設置されていない箇所吹き溜まりがあるなどが主な要因だと思っている。これらを総合的に踏まえた、雪に強い交通基盤の整備等についてはどうか。

5 厳しさを増す水田農業をめぐる環境への対応について(農林水産部長)

水田農業をめぐる環境は厳しさを増しており、農業生産者の減少・高齢化、地域コミュニティの衰退など、かねてからあげられていた構造的な大問題に加え、水田活用の直接支払交付金の見直しの動きも報じられおり、今後の生産調整のあり方が不透明さを増している中、生産者にとっては不安の中に置かれている状況にある。こうした状況の中、本県ではつや姫・雪若丸といった新品種の開発とブランド化などに取り組んでいるが、水田農業の今後の展望、「みどりの食料システム戦略」を踏まえた有機農業へどう取り組むのか、さらには農業者の再生産に向けた意欲をどのように掻き立てていかれようとするのか。

6 大豆の生産振興に向けた取組方向について(農林水産部長)

全国的にもコロナ禍の影響で主食用米の需要減少が加速する中、需給安定に向け大豆への転換を拡大する動きが進んでいる。降雪により早期の刈り取りが迫られる本県にあって、大豆の品種構成の問題もあり、「えんれいのそら」の奨励品種化を願う声がある。今後水田農業を支えるうえで重要性を増している大豆の生産拡大に向け、県としてどのように取り組んでいくのか。

7 東北公益文科大学の公立化と同大学への期待などについて(知事)

<山形県議会インターネット中継・録画>

県議会の本会議や委員会は公開されており、どなたでも傍聴することができます。また、本会議と予算(決算)特別委員会は、インターネット中継を行っておりスマートフォンからもご覧いただけます。

インターネット検索☞ 山形県議会

<https://www.pref.yamagata.jp/kensei/assembly/index.htm>